

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

# シンポジウム 芸術家の肖像—文化的記憶・評伝・映画

プロジェクト2017「芸術家の肖像—文化的記憶、評伝、映画」について

1. 従来の音楽史で描かれてきた固定化した作曲家像を、音楽史における作曲家作品研究の伝統を踏まえつつ、「受容」「文化史」「パフォーマンス」という観点から見直すこと。
2. 多面的で豊かな人間の表現力を「人間科学」の重要な研究課題として位置づけるという点で、人間科学への音楽学からのアプローチとして豊かな議論が期待できる。
3. 作曲家像に、各国の受容史、音楽文化史の視点を取り入れることによって、音楽史の記述に、異文化交流の視点が活かされる。このような視点を活かした音楽文化史について、「対話的音楽文化史」という概念を提唱する。
4. 作曲家像はどのように「文化的記憶」（アライダ・アスマン）として、引き継がれているのか。評伝、伝記映画などの変遷について、具体的な個々の作曲家について調査する。

## 基調講演 1

高岡智子（音楽学）龍谷大学社会学部講師

「ドイツポピュラー音楽と文化的記憶 —亡命ユダヤ人作曲家の映画音楽からポップアカデミーによる国家介入型ポップスへ—」

## 基調講演 2

尾鼻崇（音楽学）中部大学人文学部講師

「作曲家すぎやまこういちの軌跡」

日時：2018年2月20日(火) 14:00～17:30

会場：神戸大学 鶴甲第二キャンパス

F152教室(GSPアクティブラーニングルーム)

入場無料・事前申し込み不要

## 研究発表

山村磨喜子：詩人ガルシア・ロルカとフラメンコ —詩いつがれる記憶—

肥山紗智子：戦後日本における「アルフレッド・ヒッチコック」の受容

—そのイメージの変遷をめぐって—

小田智美：藤原義江 —浅草オペラから藤原歌劇団へ—

五十棲亘：三宅一生のファッションデザイン

—モードにおけるオリエンタリズムと「日本的」なるもの

お問い合わせ：大田研究室 [misaohata@kobe-u.ac.jp](mailto:misaohata@kobe-u.ac.jp)

主催：神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 表現系講座